KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立ブームスプレーヤ
BSM510B

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注　意

- この説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- 本書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行なった後、この説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルについて

- この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

警告表示ラベル

⚠警　告	・作業機はトラクタに確実に装着してください。 ・作業機の装着・脱着作業時は薬液を完全に抜いて作業してください。 ・傾斜地等の不安定な場所では、装着・脱着は行わないでください。 ・脱着後、作業機が安定しているか確認してください。 ・作業機がスタンドで自立していない時は、作業機の下部等には絶対に近よらないで下さい。
⚠注　意	・取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。 ・使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。 ・点検整備のときはエンジンを停止してください。けがをするおそれがあります。 ・本機から離れる時は必ずエンジンを停止してください。 ・駐車時は必ず駐車ブレーキを使用してください。 ・最大積載量（薬液タンク満水）以上は積まないでください。 ・高速走行時の急旋回は行わないでください。 ・作業路及びほ場への進入路の整備を行ってください。 ・傾斜地は低速で走行してください。 ・降坂時は必ずエンジンブレーキを併用してください。 ・危険を感じた時は作業を中止してください。 ・保護マスク 保護メガネ 保護衣 ゴム手袋 ゴム長靴を用意し、安全な服装で作業してください。 ・作業後は手足顔などをよく洗いうがいをしてください。 ・作業中に少しでも体調がおかしくなったときは直ちに作業を中止し、医師の診断を受けてください。 ・フタは確実にしめてください。薬液をあびるおそれがあります。 ・ブームの操作は周囲の障害物に気を付けてゆっくりと行ってください。 ・作業機には乗らないでください。おもわぬけがをする場合があります。 ・回転部にはぜったいにさわらないでください。けがをするおそれがあります。 ・運転中ノズルに近づかないでください。薬液をあびるおそれがあります。 ・凍結のおそれがある時はポンプを空運転して水抜きを行ってください。 X505000670

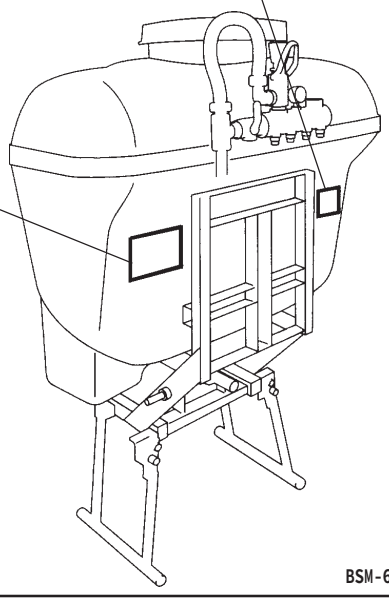
安全運転のために

1．点検，整備の時はトラクターのエンジンを完全に止めて下さい。
2．路上を走行する時は本機を完全に持ち上げてトラクターの油圧をロックして下さい。
3．路上を走行する時はブームを折りたたみロックを掛けて下さい。
4．ポンプの回転数はPTO回転数と同じです，PTO回転数は，1000回転／分で使用します。
PTO回転数は1000回転／分以上は絶対上げないで下さい。

機械を長持ちさせるために

1．1日の作業が終わったら，薬液タンク内に清水を半分以上入れ，ノズルから吐き出し配管内の洗浄を行なって下さい。
2．洗浄作業が終了する直前にポンプに数滴注油して下さい。
3．ブームの各ヒンジ部に注油して下さい。
4．寒冷時は凍結を防止するため水抜きを完全にして下さい。
5．散布後及び洗浄後の残液は河川等環境上影響のあるところには絶対に捨てないで下さい。

975224-10800



BSM-62

はじめに

共立ブームスプレーヤをお買い上げいただき、ありがとうございます。

- このブームスプレーヤはこの取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
- 本機は、トラクタのＰＴＯ回転数が１０００rpm以上のレンジがないとご使用になれませんのでご注意ください。
- 本機を搭載したまま一般公道を走行することは、道路交通法の違反となります。

目 次

はじめに …… 1
各部の名称 …… 2
正しい作業のために …… 4
トラクタへの装着 …… １０
作業前の準備 …… １１
ブームの取扱いについて …… １４
散布計画と散布 …… １５
散布終了後 …… １６
点検整備 …… １７
長期保管の方法 …… １８
故障と対策 …… １９
仕様 …… ２０
オプション部品、メモ …… ２１

・説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・単位はＳＩ単位を使用しています。（ ）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危 険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警 告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注 意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警 告

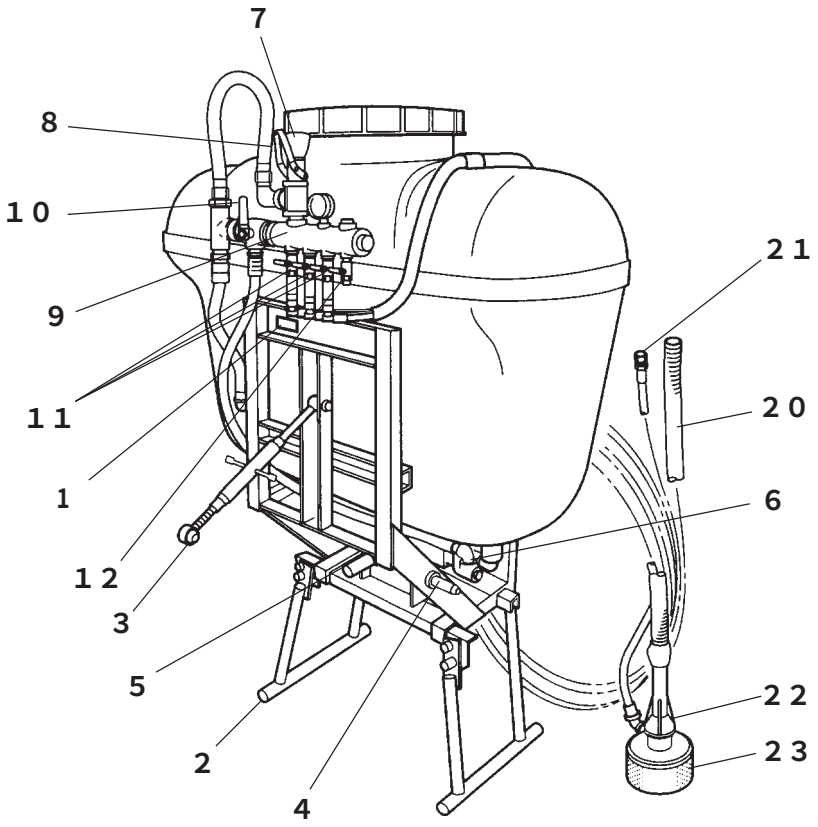
- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丛に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

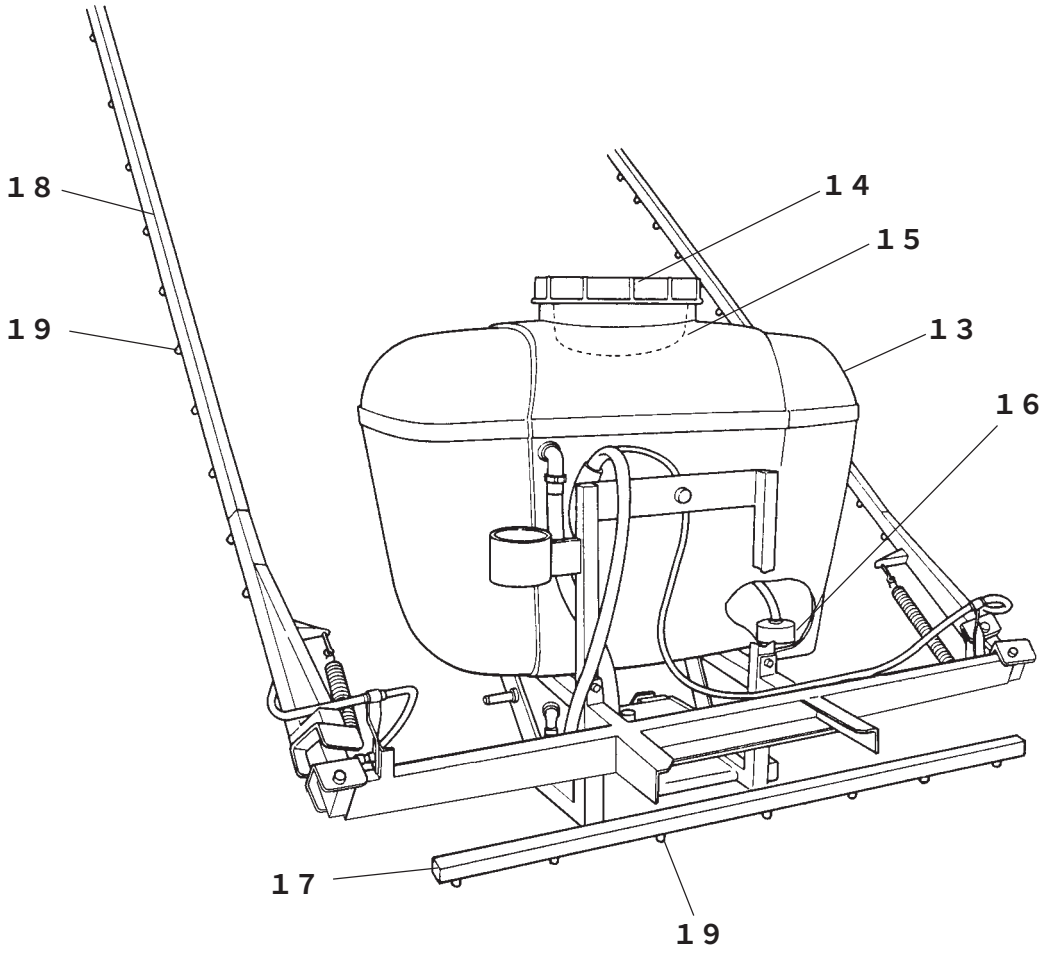
重 要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

各部の名称



BSM-63



BSM-04

各部の名称

１．型式番号ラベル ――― お問い合わせの際にお知らせ願います。
２．スタンド ――― 本機を自立させます。必ず全開状態で使用してください。
３．トップリンク ――― トラクタへ取付けます。
４．ロアリンクピン ――― トラクタと連結します。
５．入力軸 ――― ドライブシャフトを接続し、動力を入力します。
６．動噴 ――― 散布する薬液の圧力を昇げます。
７．調圧弁 ――― 動噴の圧力を調整します。
８．調圧レバー ――― レバーを下げると加圧、上げると減圧になります。
９．分配管（ラインストレーナ） ――― 散布薬液をろ過します。
１０．ワンタッチコック ――― ブーム全体の**散布⇔停止**をします。
１１．散布コック ――― 各ブームの**散布⇔停止**をします。
１２．補助コック ――― 圧力水の取出しやドレンなどに使います。
１３．薬液タンク ――― 薬液を入れるタンクです。ポリエチレン製。
１４．薬液タンクフタ ――― 薬液タンクのフタです。
１５．タンクこし器 ――― 薬液タンクへ入れる水や薬などをこします。
１６．吸込ストレーナ ――― 動噴の吸込む薬液をろ過します。
１７．中央ブーム ――― 本機中央部のブームです。
１８．元ブーム ――― 各々、左側・右側の元ブームです。
１９．散布ノズル ――― 各ブームの下側に取付いています。
２０．補給ホース ――― 補給ポンプからの水を薬液タンクに供給します。
２１．高圧ホース ――― 補助コックと接続し、補給ポンプへ圧力水を送ります。
２２．補給ポンプ ――― 薬液タンクに水を補給するポンプです。
２３．補給ポンプストレーナ ――― 薬液タンクに送られる水をろ過します。

正しい作業のために

重　要

本機は、仕様条件を満たしたトラクタに装着してください。特に前、後の質量バランスに注意をしてください。

⚠ 警　告

農作業安全基準、トラクタ取扱説明書およびこの取扱説明書をよく読んで、正しい安全作業を行なってください。

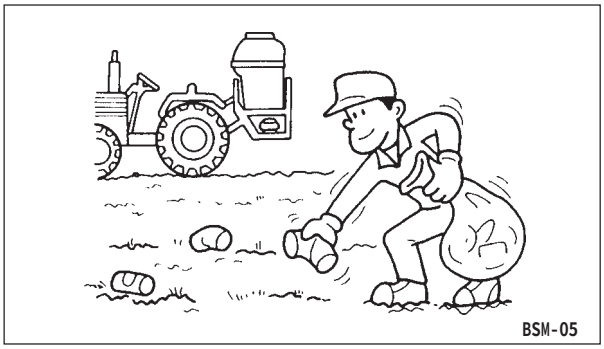
⚠ 警　告

ほ場の出入り、溝などの横断、軟弱地の通過などのときは、安全を常に確認してください。

⚠ 注　意

- トラクタを運転する作業者は、運転免許証を所持してください。
- 運転操作は必要以上の高速走行、急発進、急加速、急制動、急旋回はしないで、安全運転、安全作業を行なってください。





本機の着脱時について

- 薬液を完全に抜いて作業してください。
- 水平堅土上で行なってください。
- トラクタに確実に装着してください。
- 本機を外したときは、スタンドを立てて転倒の恐れがないようにしてください。
  また、本機の下部には入らないでください。

移動時や運転中について

- 薬液タンクフタは完全に締めてください。薬液をあびる恐れがあります。
- 薬液量は状況に合わせて調整してください。
- 傾斜地は低速走行で、降坂時はエンジンブレーキでゆっくり走行してください。
- 本機には乗らないでください。思わぬケガをする場合があります。
- 回転部には絶対にさわらないでください。ケガをする恐れがあります。

⚠ 注　意

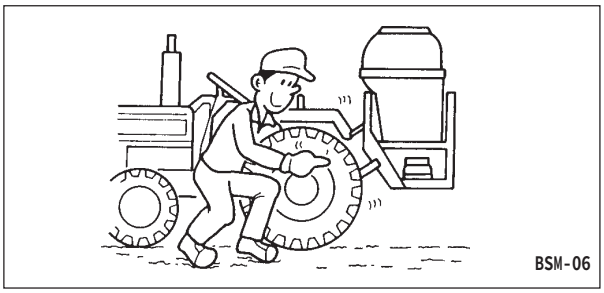
ブーム操作時は周囲の障害物に注意し、安全確認の上ゆっくりと行なってください。

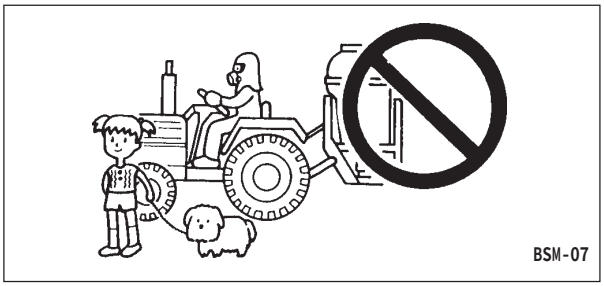
からだの状態

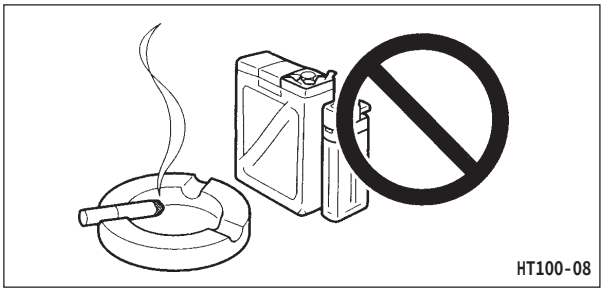
- 病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。

作業前の点検

- 作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。


BSM-06


BSM-07


HT100-08

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。
  農薬に直接触れないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 農薬が目に入らないように注意してください。
- 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
- また、農薬の種類によっては、
  ☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
  ☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
- 環境へ配慮した使用が必要です。
  ☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
- 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 各部品がきちんと取付けられているか確認してください。
- 各リンク部のロックがされているか確認してください。
- ホース、配線などが動く部分に干渉していないか点検してください。

- 子供や家畜など作業に関係のない者が近くにいないことを確認してください。

⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

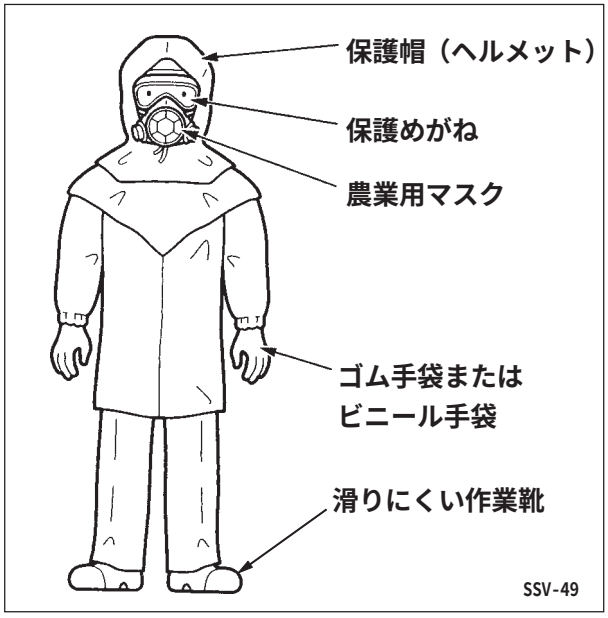
薬液散布について

農薬使用上の留意点

- 農薬ラベルをよく読んでください。
  農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
- 農薬取締法が改正されました。
  平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
  ①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
  ②使用濃度(希釈倍率)および面積あたりの使用量、
  ③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

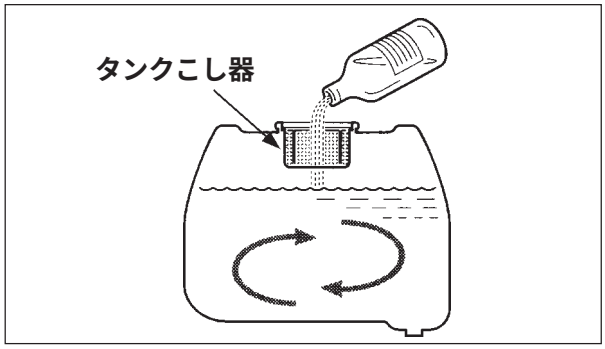
⚠ 警　告

- 飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。
- 薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう十分配慮してください。



薬液散布前の注意

- 保護帽（ヘルメット）を着用してください。次のような効果があります。
  - ー 転倒したときに重大な事故を防ぐ。
  - ー 騒音から耳を保護する。
  - ー 農薬から身体を守る。
- 滑りにくい作業靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 薬液を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、薬液が皮ふに触れないようにしてください。
- 薬液が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。
- 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを用意してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。
- 専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。飲料水源・河川・湖沼からは直接給水しないでください。

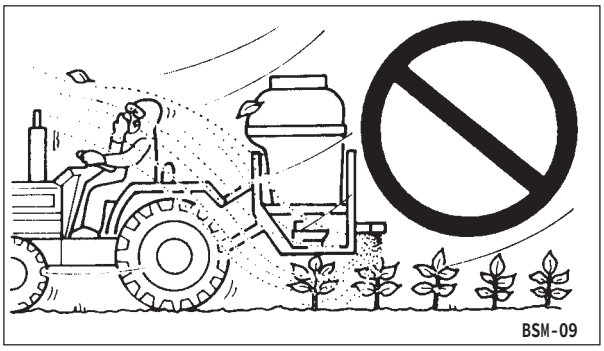


重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、散布ノズルの目詰まりの原因となります。

- 粉剤などを溶かす場合は、別の容器にてあらかじめ水溶させてから薬液タンクに入れてください。

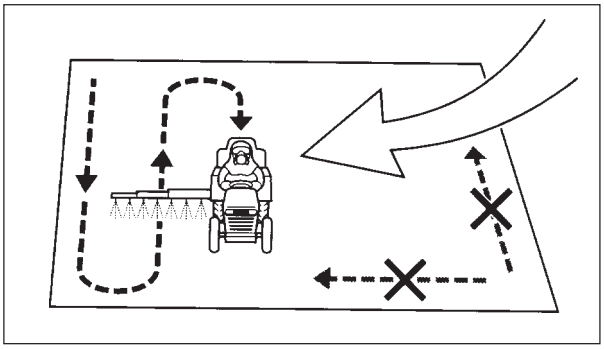
薬液散布中の注意



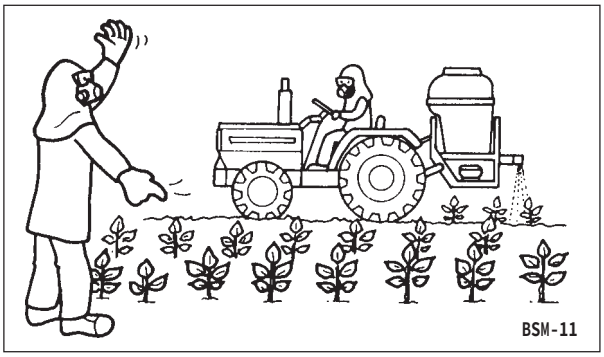
●散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると薬液が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗します。

⚠ 警 告

- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、本機を絶対に操作しないでください。
- 風が強いときには絶対に作業を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛んでしまうことがあります。



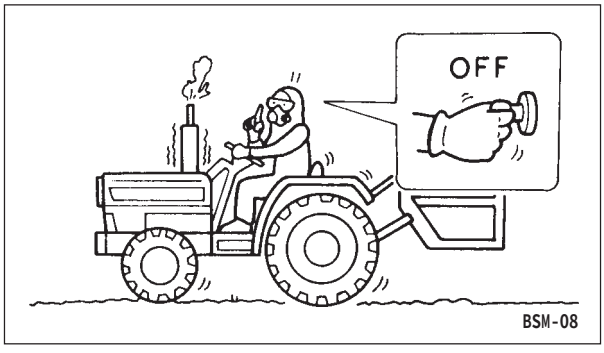
- 薬液がからだにかかるのを避けるため、風下の方から作業をはじめてください。
- スライドブームは常に風下側にし、散布をしてください。



- 防除作業を二人以上で行なう場合、合図をして安全を確認してください。
- 運転中は、ノズルに近づかないでください。薬液をあびる恐れがあります。

⚠ 注 意

ブーム操作時は周囲の障害物に注意し、安全確認の上ゆっくりと行なってください。



⚠ 警 告

危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。



- 薬液の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
- 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。



⚠ 警　告

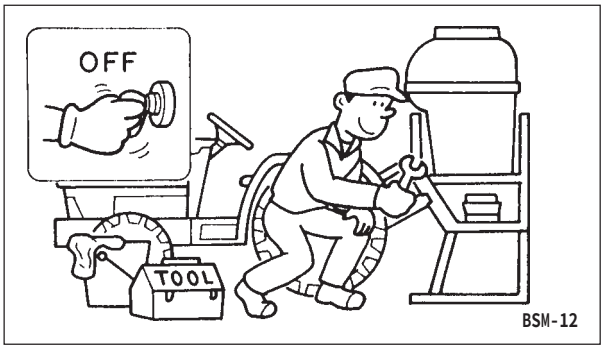
作業中あるいは作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

薬液散布後の注意

- **薬液が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。**
- **作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**

重　要

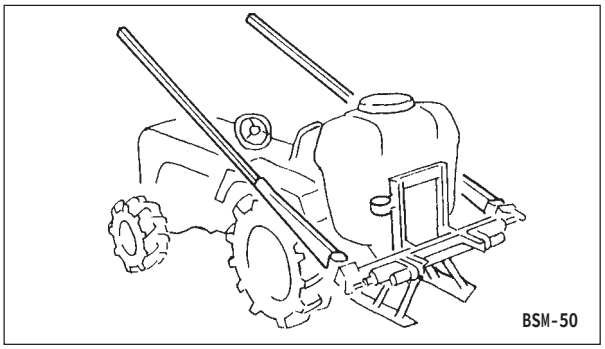
散布終了後は、必ず清水で運転しノズル内などをきれいに洗ってください。散布ノズルの目詰まりの原因となります。



点検・整備の注意

⚠ 警　告

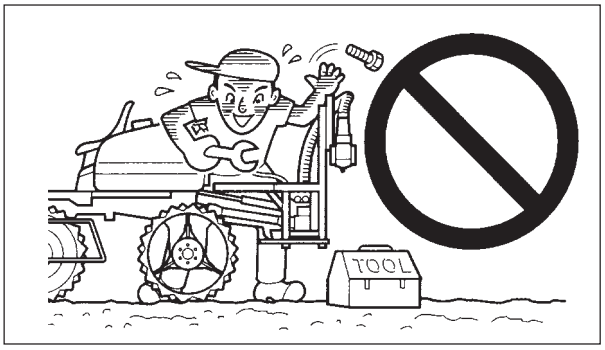
修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。



⚠ 警　告

点検･整備などの作業は、必ずスタンドを全開まで立てて、堅牢な地面に自立した状態で行なってください。

- **ブームは最下位の状態にして、ブームスタンドを使用して行なってください。**
- **薬液タンク内の水は抜いてから行なってください。**

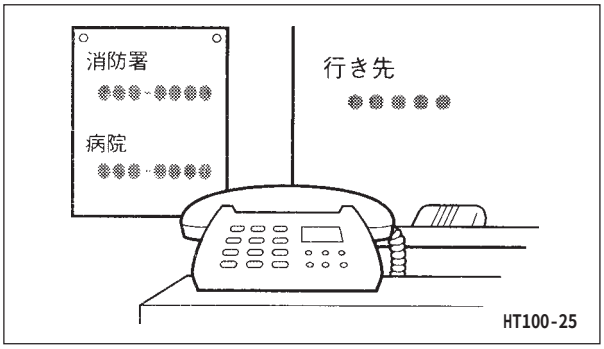


重　要

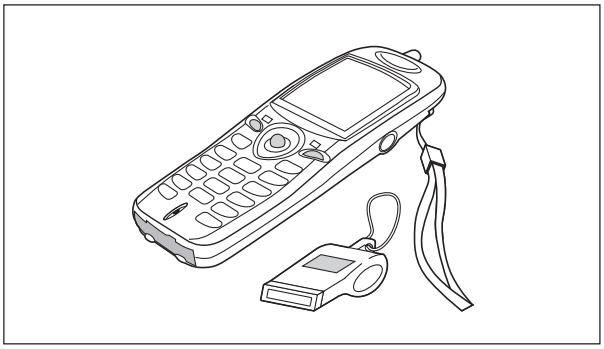
この取扱説明書とトラクタなどの説明書に従って、点検･整備を行なってください。

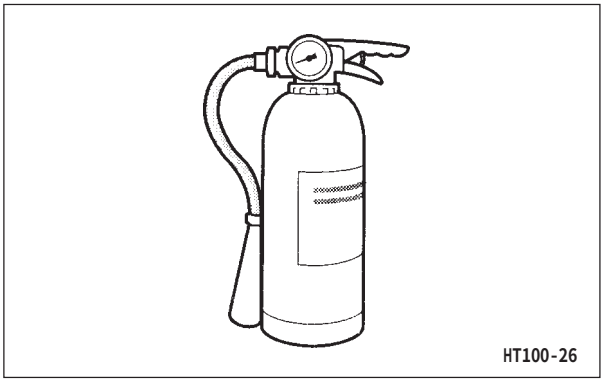
- **指定以外の部品を使用したり、本機の改造を行なったりしないでください。**

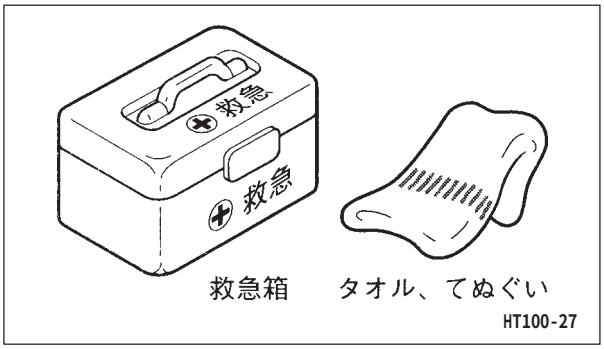
万一の事故に備えて



HT100-25




HT100-26



救急箱　　タオル、てぬぐい
HT100-27

● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。
負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

● 発火に対する備え

⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

● ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

トラクタへの装着

⚠ 警　告

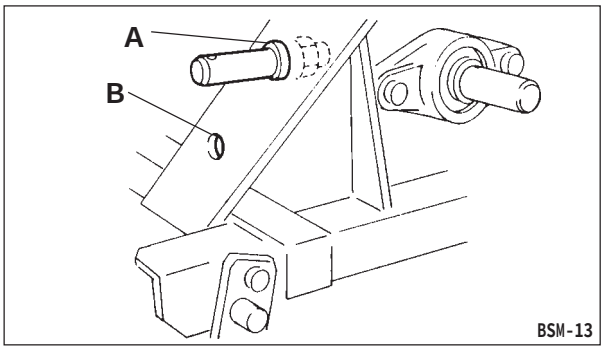
トラクタの移動時以外は、必ずエンジンを停止してください。

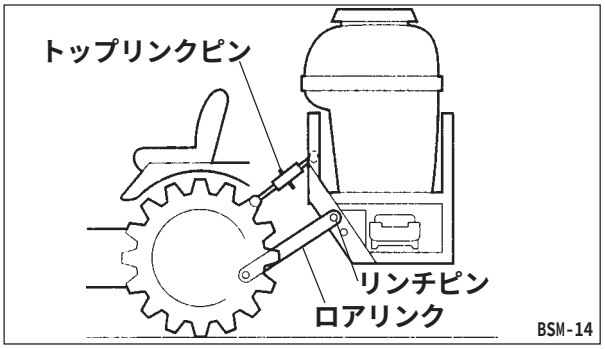
重　要

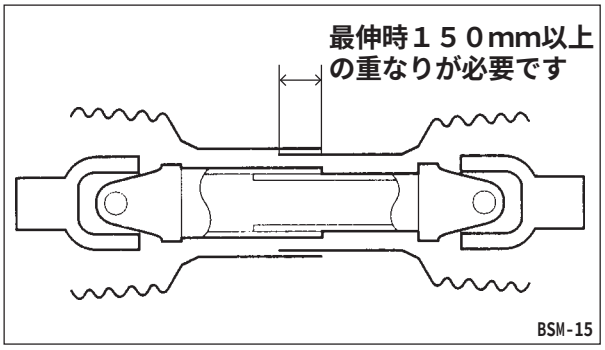
トラクタの操作は必ずトラクタの説明書に従ってください。トラクタの油圧操作はトラクタの所有者が行なってください。

⚠ 警　告

周囲に作業に関係のない人がいないかどうか、安全を充分に確認してください。







トラクタの準備

- **トラクタは、本機の総質量（薬液タンク満水時）の２倍以上の機体質量があるトラクタを選んでください。**
- **トレッドをうね幅に合わせて調整します。**
- **油圧のセレクタレバーを“ポジション”にセットし、リフトコントロールレバーをいっぱいに下げます。**
- **ロアリンクのチェックチェーンをゆるめるかまたは振れ止めを取外してください。**
- **トップリンクを取外してください。**
- **ＰＴＯシャフトカバーを外してください。**

装着方法

- **薬液は完全に抜いてください。**
- **トラクタを静かにバックさせます。**
- **ロアリンクを左側、右側の順に取付け、リンチピンを確実に差し込んでください。**
  ロアリンクピンの取付位置は、Ａ、Ｂ２ヶ所あります。トラクタに合わせて取付の位置を変えてください。取替えた場合は裏側ナットを十分に締付けてください。

- **スプレーヤ用のトップリンクを取付けてください。**
  トラクタのトップリンク取付位置が選択できる場合は重い作業機用の位置を使用してください。
- **トラクタの油圧で本機を上げ、水平になっているかどうか、またＰＴＯ軸と入力軸が水平になっているかどうかを確認してください。**
  水平でない場合は、ロアリンク、トップリンクで調整してください。

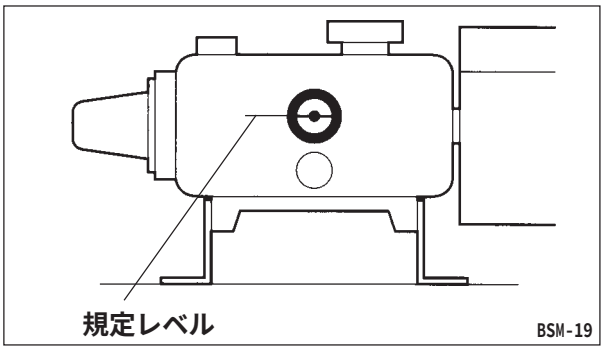
- **ユニバーサルジョイントを取付けてください。**

重　要

ユニバーサルジョイントが長い場合は切断してください。長すぎると、旋回時にジョイントや動噴が破損する恐れがあります。

- **ロアリンクのチェックチェーンを左右均等に締付けてください。**

作業前の準備

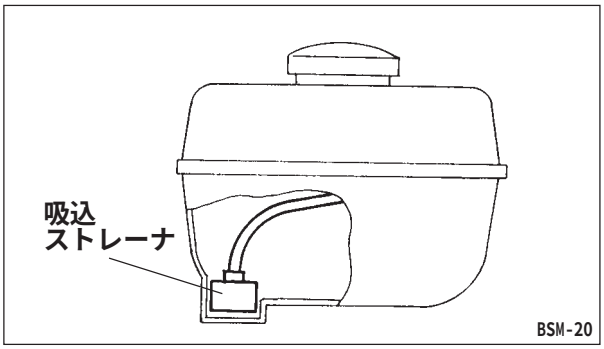


● 動噴クランクケースオイルの点検
本機を水平にし、動噴の油量計を見て規定レベルまであるか確認してください。不足のときは下記のオイルを補充してください。
- 容量 …… ０．５５Ｌ
- 使用オイル … ＳＡＥ＃３０相当エンジンオイル

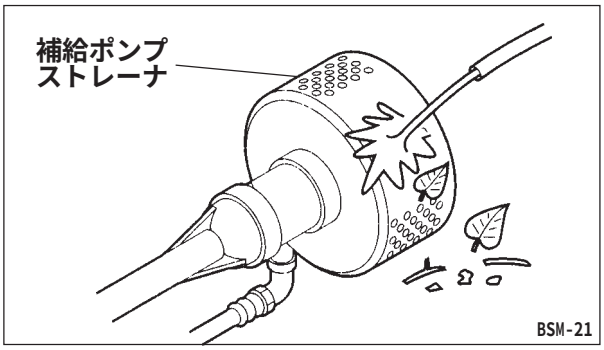
● オイルが白濁している場合は交換してください。

⚠ 警 告

不意の落下防止のためスタンドは立ててください。

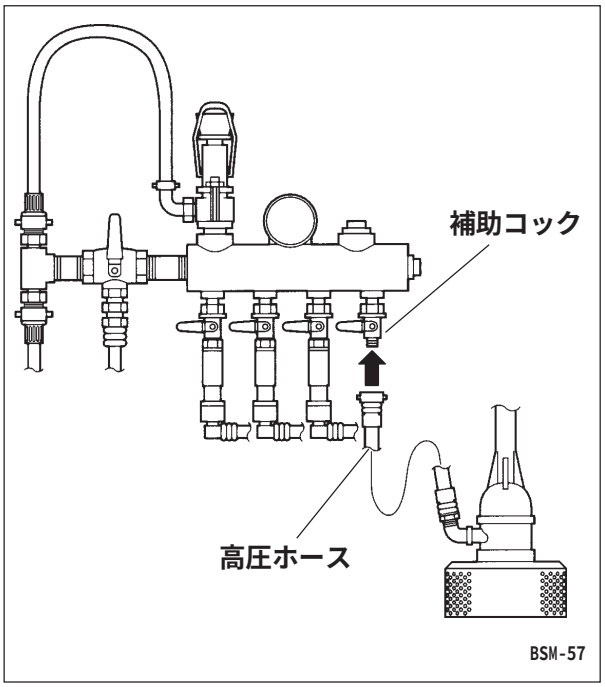


● こし器の点検
- 薬液タンク内の吸込ストレーナにゴミが詰まっていないかを点検し、詰まっているときは取除いてください。不具合の原因となります。
- 吸込ストレーナは薬液タンク下部の落し込み部に挿入します。



- 補給ホース先端の補給ポンプストレーナにゴミが詰まっていないかを点検し、詰まっているときは取除いてください。吸込量不足の原因となります。

● 薬液タンクの準備
- 薬液タンクのドレンキャップを確実に締付けてください。
- 薬液タンク内にバケツ１杯（約５Ｌ）の水を入れてください。

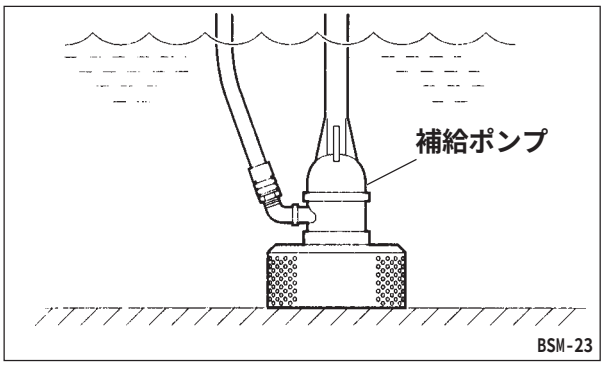


⚠ 警　告

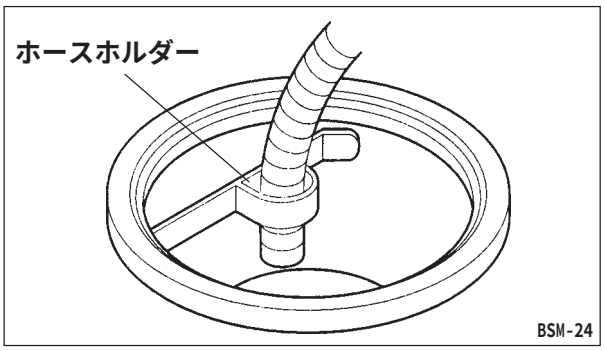
- **飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。**
- **薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。**
- **薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。**

● 補給ポンプと薬液の準備

１．分配管の補助コックに補給ポンプの高圧ホースを継ぎます。

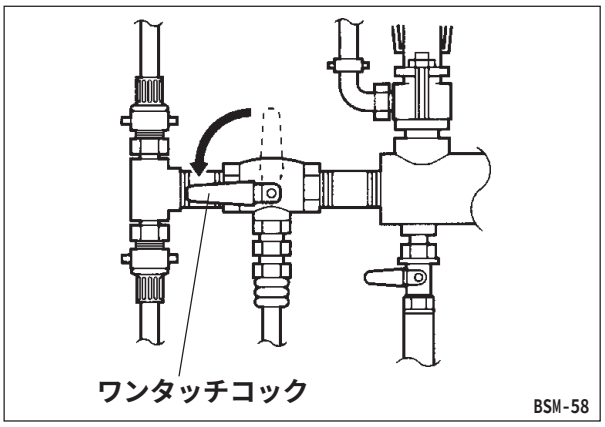


２．補給ポンプを水中に入れます。

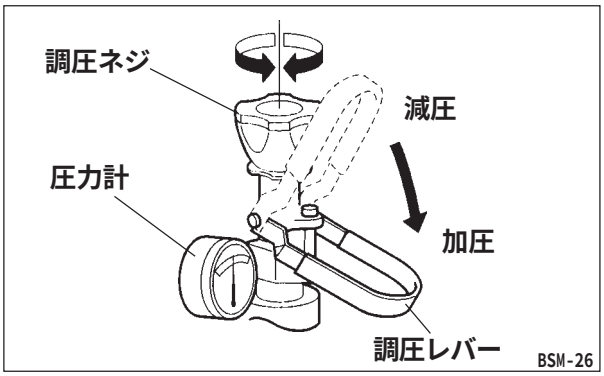


３．補給ホース先端をタンクこし器のホースホルダーに差し込んでください。

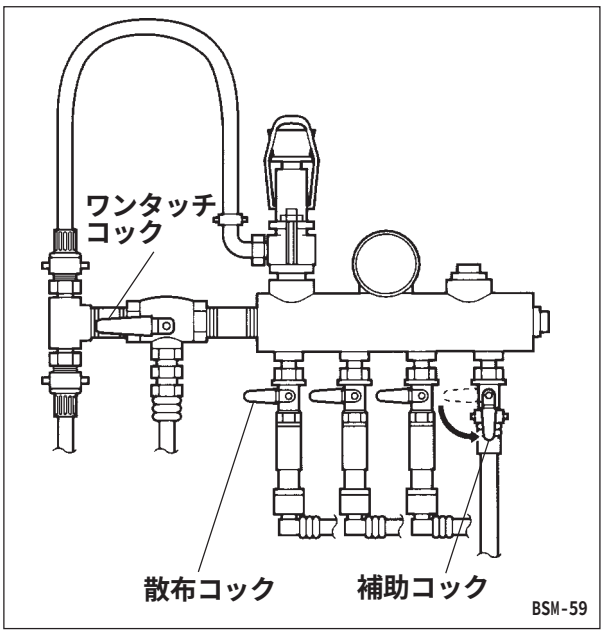
４．ＰＴＯを静かに入れ、ＰＴＯ回転数を１０００ｒｐｍにセットします。



５．散布コック、補助コックを閉じたまま、ワンタッチコックを開きます。



６．調圧レバーを“ 加圧 ”の方向に倒し、調圧ネジで圧力計の指針を２．０ＭＰａにセットしてください。



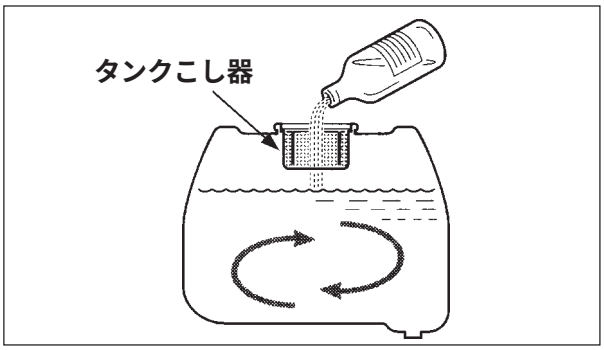
７．補助コックを開きます。
薬液タンク内に補給水が入ります。
約３～５分で満杯になります。

８．薬液を調合し、タンクこし器を通して薬剤を入れます。

重　要

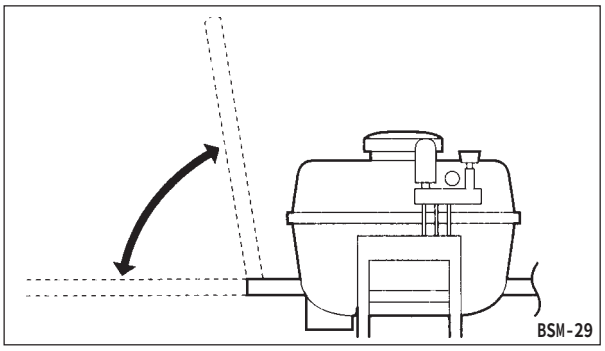
粉剤などを溶かす場合は、別容器であらかじめ水溶させた後に薬液タンクに入れてください。

粉剤などを投入後は動噴は止めないでください。

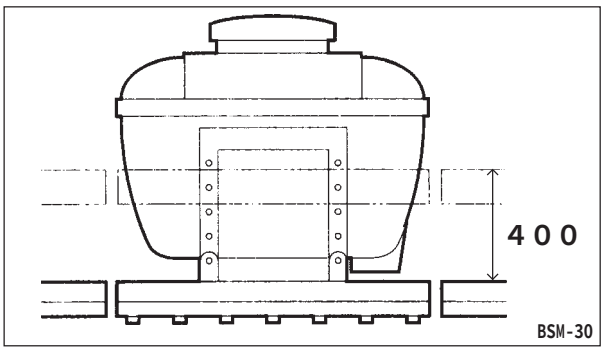


９．薬液タンクフタは確実に締めてください。
外部への漏れがないか点検をしてください。

ブームの取扱いについて



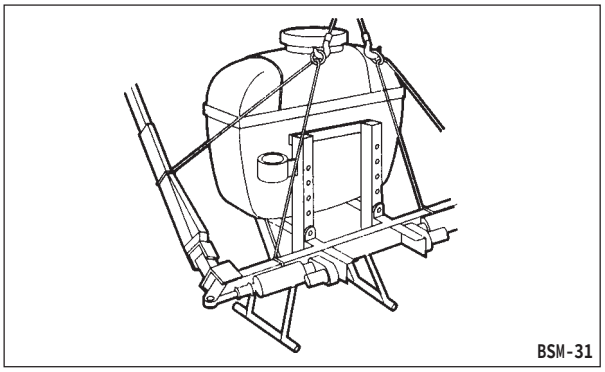
● ブームの開閉
ブームは手動で開閉を行ないます。



● ブームの高さ調整
育苗の高さに合わせてブームの高さを調整してください。ブームは１００mm毎に４段階調整が可能です。

⚠ 警　告

調整作業時は周囲の安全を確認し、作業する人以外は近づかないようにしてください。

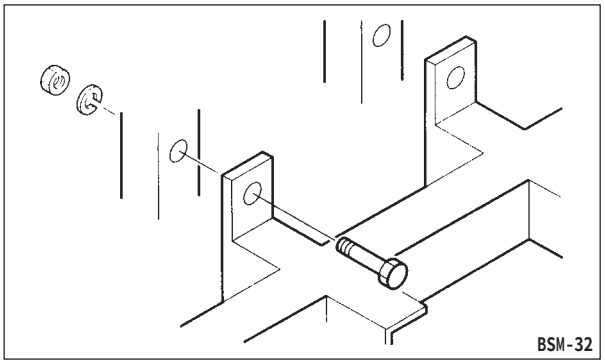


１．水平堅土上に本機をスタンドを立てて置きます。（トラクタに装着したままスタンドを立てて堅土上に降ろしてもかまいません。）

２．ブームフレームにワイヤまたは丈夫なロープを掛け、チェーンブロックかトラクタのフロントフォークで保持してください。

⚠ 警　告

吊り方が悪いとブームフレームが回転し、思わぬケガをすることがあります。
バランス良く吊ってください。



３．取付ボルト４本を抜き取ります。

４．ブームフレームを静かに吊り上げ（吊り下げ）希望の穴位置に合わせボルトを挿入します。

５．ナットを入れ、確実に締付けてください。

６．ワイヤ類を取外します。

散布計画と散布

ノズル吐出量 （L／min）			
	圧力計値		
	1.0 MPa	1.5 MPa	2.0 MPa
KDN B3	0.83	1.02	1.17

散布計画

次の式より散布計画を立ててください。

イ） 散布量 …… Q(L/10a)
ロ） 散布幅 …… W(m)
ハ） ノズル総吐出量 … G(L/min)
ニ） 走行速度 …… V(km/h)

$$V = \frac{60G}{W \cdot Q}$$

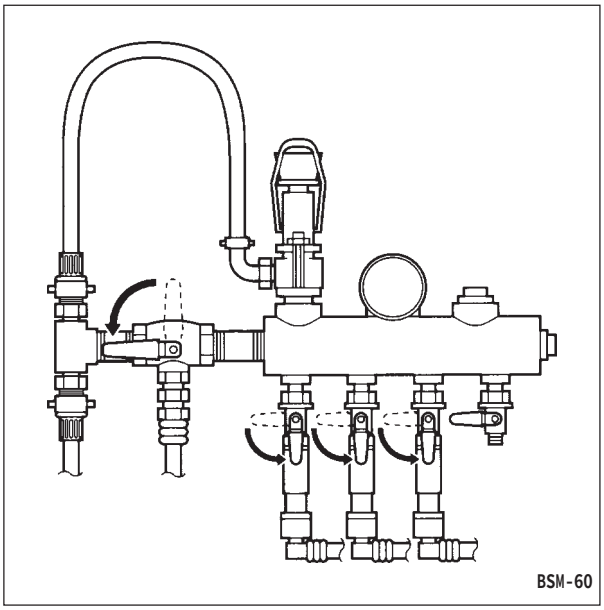
G＝ノズル吐出量×ノズル数
W＝0.3（ノズル間隔）×ノズル数
ノズル数最大　：28
散布幅最大　　：8.4m

例えばKDN B3ノズルを使用して圧力1.5 MPaで反当たり100 L散布する場合の走行速度は次のようになります。

散 布 量　　：100（L/10a）
散 布 幅　　：8.4（m）
ノズル総吐出量：1.02 × 28 ＝ 28.6（L/min）

$$\text{走行速度}\quad V = \frac{60 \times 28.6}{8.4 \times 100} = 2.0\ (\text{km/h})$$

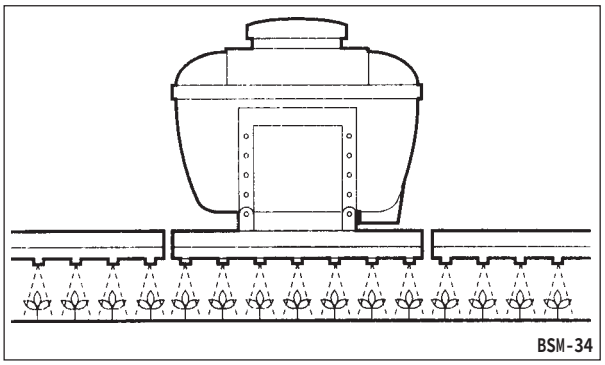
散 布



本機の散布回路は独立しており、全面散布、部分散布のいずれも可能です。

● 全面散布の場合
　３本の散布コックを“開”にしておき、ワンタッチコックを“開”にしてください。

● 部分散布の場合
　散布したい部分の散布コックのみを“開”にし、ワンタッチコックを“開”にしてください。



⚠ 注　意

散布開始の際には、特に後方やブーム先端の安全確認を十分行なってください。

散布手順

- ブームを散布（水平）状態にし、トラクタのＰＴＯを**１０００ｒｐｍ**にします。
- ワンタッチコックは「閉」にします。
- 散布する部分の散布コックを「開」、補助コックは「閉」にします。
- 調圧レバーを「加圧」（下げる）にします。
- ワンタッチコックを「開」にします

——散布開始

- 必要な圧力になるまで調圧ネジで調節します。
- トラクタを走らせ、必要な速度にします。

散布終了後

⚠ 警　告

- 薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう十分配慮してください。

重　要

散布終了後は、必ず清水で運転しノズル内などをきれいに洗ってください。散布ノズルの目詰まりの原因となります。

１．ワンタッチコックを閉じます。
２．散布コックを「閉」にします。
３．調圧レバーを「減圧」（上げる）にします。
４．トラクタのＰＴＯを切ります。
５．ブームを閉じます。

清掃

一日の散布作業が終わったら必ず清掃してください。

- 薬剤で汚れている部分は清水できれいに洗浄してください。
- タンクこし器、吸込ストレーナを清水で洗浄してください。薬剤の粗粒が詰まっていることがあります。
- 薬液タンク内も清水で洗浄します。
- 薬液タンク内の洗浄水は、タンクドレンを外して抜きます。

重　要

水抜きなどで、３分間以上の動噴のカラ運転はしないでください。
カラ運転による動噴の破損はメーカの責任外となります。

重　要

凍結の恐れがある場合は、１７ページの点検整備を参照してください。

点検整備

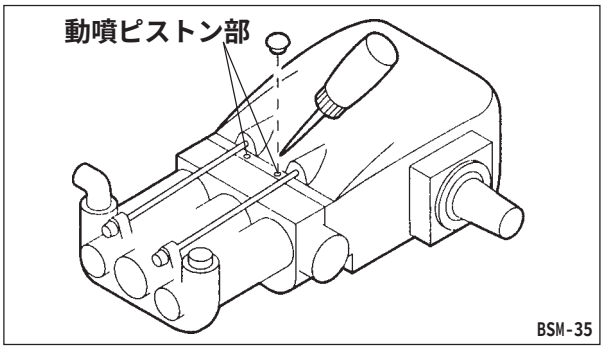
⚠ 警　告

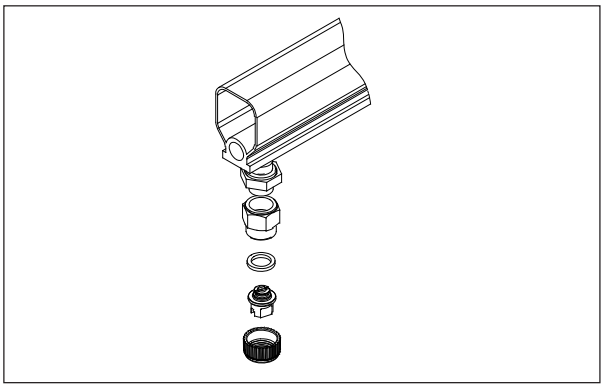
点検･整備の際は、必ずトラクタのエンジンを停止し、スタンドを立てて行なってください。

重　要

点検・整備の日付、内容は巻末のメモページに記録しておくと、アフタサービスなどのときに便利です。

給油場所	油の種類	点検補給時期	交換時期	指定量
動噴クランクケース	エンジンオイル＃３０	25 時間毎	100 時間毎	0.55L
ユニバーサルジョイント	グリース	50 時間毎	使用の都度	適量
ユニットベアリング	グリース	50 時間毎		適量





⚠ 注　意

冬期間、水が凍結する恐れのある地域では必ず水抜きを行なってください。

重　要

点検の不備による不具合などはメーカの責任外となりますので、注意をしてください。

- **ホースのゆるみ、液漏れがしてないかを確認してください。**
- **配線コードが外れていないか、被覆がむけていないか確認してください。**
- **所定の点検時期毎に指定オイルを給油してください。**

その他、各摺動部、回転部は適時オイラにて給油してください。

- **運転終了毎に動噴を低速で回し、動噴ピストン部にオイルを４～５滴程度注入してください。動噴シールの耐久性が永くなります。**

ノズルの点検

- **作業後は噴口の詰まりや摩耗がないか常に注意して点検してください。本機に使用されている噴板はセラミックを素材とした耐久性の高いものですが､摩耗により噴霧の粒子が粗くなりましたら、新しいものと交換してください。**
  摩耗した噴板を使用すると、吐出量が基準よりも増加し、動噴の圧力が低下するため防除効果の低下や薬剤のむだになります。

水抜き

１．薬液タンクをカラにします。
２．各ブーム部の接続ホースを外します。
３．動噴を低速で､各ホースから水が出なくなるまで運転してください。

重　要

３分間以上のカラ運転はしないでください。

長期保管の方法



- 散布終了時における清掃と同様に清掃してください。
- 薬液タンクフタ、薬液タンクドレンのフタは開けておいてください。

⚠ 警　告

薬液タンク内に子供や動物が入り込むことのないようにしてください。

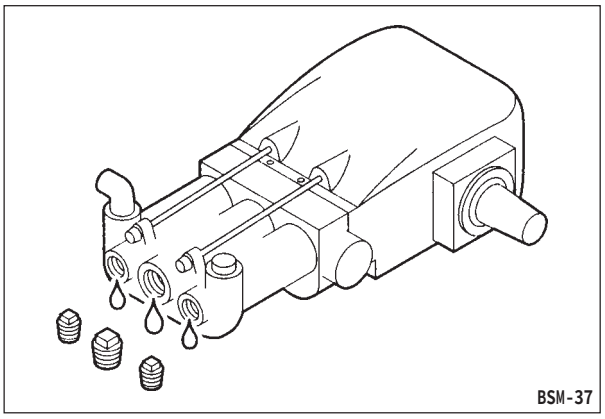
- 金属部分は油をしみこませた布で軽く表面を拭きます。
- 水抜きを完全に行なってください。
  点検整備の“ 水抜き ”の項（１７ページ）を参照してください。
- 数日間よく乾かします。
- 風通しが良く、湿気の少ない場所にシートなどを掛けて保管してください。
- 必要な部品などがあれば、販売店に注文しておきましょう。

重　要

凍結による不具合などは、メーカの責任外となりますのでご注意ください。

凍結防止のために

凍結の恐れがある地域の場合は、次の手順に従ってください。



- 水抜きを完全に行なってください。
  点検整備の“ 水抜き ”の項（１７ページ）を参照してください。
- 動噴のドレンプラグを外してください。
- ブーム散布ホースをブーム接続部で外し、ホース内の洗浄水を抜きます。
- 散布コック、補給コックを‘ 開 ’の状態にします。
- ブーム内の洗浄水を抜いてください。
- 乾いた布でよく拭きとり、十分乾かしてください。
- できるだけ気温の下がらない場所にシートなどを掛けて保管してください。

⚠ 警　告

- 凍結防止に不凍液を使用した場合、次に本機を使用する際の不凍液の回収は、不凍液の説明書に従って実施してください。
- 環境汚染を起こさないよう十分配慮し、直接外部に廃棄しないでください。

- 凍結による破損事故を防ぐその他の方法として、不凍液を配管内各部に入れる方法もあります。その場合は、水と不凍液の混合液を作って薬液タンクに入れ、一度薬液ポンプを運転しノズルから吐出します。（混合液の濃度は、不凍液の説明書に従って決めてください。）

故障と対策

もし不都合が起こった場合は次に記す対策で多くの場合は正常に戻ります。
万一戻らない場合は、お買い求めの販売店に直接お問い合わせください。
お問い合わせの際その機械番号と型式を忘れずにお知らせ願います。

不具合事項	原　　因	対　　策
吸水しないまたは途中から吸水しなくなった。	吸水ホースが破損しているか折れ曲がっている。 吸水ホースと動噴との締付不良またはパッキンの脱落。 吸込ストレーナが液面より浮上がっている。 吸込ストレーナにゴミが付着している。 吸排弁に砂、ゴミなどが付着している。 吸排弁が摩耗している。 吸入弁が固着し作動しない。 吸排管締付ボルトがゆるんで合わせ面から空気を吸っている。 調圧弁が加圧状態のままである。	破損していたら交換し、折れ曲がりをのばす。 パッキンが入っていることを確認し十分締めなおす。 浮上がらぬよう固定する。 ゴミを除き清水でよく洗う。 よく洗い落とす。 新品と交換。 弁と弁座を掃除する。 ボルトを交互に増し締めする。 調圧レバーを上げて減圧する。
余水から気泡がでる。	吸水ホースの取付けがゆるんでいる。 吸水ホース用パッキンがすり切れている。 吸水ホースに穴があいている。 吸配管の締付不良。	パッキンが入っていることを確認し十分締めなおす。 新品と交換。 新品と交換または穴をふさぐ。 増し締めする。
圧力計の針のふれが大きい。	吸水弁の作動不良による。 吸排出管の締付不良、吸水ホースの締付不良などで空気を吸っている。 吸込ストレーナの目詰まり。	分解して掃除する。 良く締付ける。 清水でよく洗い落とす。
圧力調整したのち散布を始めると圧力の降下がはげしい。	下記のいずれかが原因で吸水量に対してノズル吐出量が多い。 (a) 動噴の回転数の不足。 (b) ノズルの摩耗で噴霧量が多い。	 回転数を上げる。 新品と交換する。
異常な音がする。	オイルがないか、不足している。 空気を吸っている。 動噴回転数が高速すぎる。 吸込ストレーナの目詰まり。	オイルを入れる。 点検して締付ける。 正常回転に直す。 清水でよく洗い落す。
クランクケース内に薬液が入る。	プランジャの不良またはクランクケースオイルシールの摩耗。	販売店へ。（シールの交換）

仕　様

区　分	項　目	単　位	仕　様
型　式			BSM510B
寸　法	長さ×幅×高さ	m	2.7 × 1.7 × 1.6
質　量	本　体	kg	142
	全備（タンク満水）		654
薬液タンク	材　質	―	ポリエチレン
	容　量	L	500
動　噴	形　式	―	３連ピストンポンプ
	回 転 数	rpm	1000
	吸 水 量	L/min	45
	最大圧力	MPa	4.0
ノズル	形　式	―	KDN B3
	吐き出し量	L/min	28.6
	圧　力	MPa	1.5
	個　数	―	28
ブーム	形　式	―	両ブーム
	散 布 幅	m	8.4
	開閉方式	―	手動式
補給ポンプ	型　式	―	JP-25
	吸 水 量	L/min	105
かくはん	方　式	―	余水噴流
ロアリンクピン	カテゴリ	―	1
トップリンクピン	カテゴリ	―	1
搭載トラクタ	定格出力	kW	18 (24PS)以上

よりよい製品を造るために予告なく仕様を変更する場合もありますのでお含みください。

オプション部品

オプション部品として下記のものがあります。販売店にご注文ください。

●クイックヒッチ

メ　モ

点検･整備やアフタサービスなどの、日付、内容などの記録にお使いください。

株式会社やまびこ

〒198-8760 **東京都青梅市末広町 1-7-2**　　**Tel 0428-32-6181**

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

970 300-1051 3
X750 608-020 3　　**1105e 2013 ES**

© **2000** 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。